

農業水利施設マネジメントに資する土地改良区会計のあり方に関する研究
— Research on Accounting System for Management of
Irrigation and Drainage Facilities in Land Improvement Districts —

○ 柏 みどり*、大里耕司**、千賀裕太郎**

KASHIWA Midori, OSATO Koji, SENG A Yutaro

1. はじめに

近年、農業水利施設の適切な機能保全の必要性から、ストックマネジメントの取組みが本格的な実施段階に入っているが、その更なる発展のために今後必要だと言及されるものの一つにインフラ会計がある。農業水利施設を対象とするインフラ会計の研究では、理論面での検討を行ったものはあるが、現実の施設管理主体を対象にとり行われた実証的研究は見当たらない。また、農業水利施設を対象とするインフラ会計の中でも、特に土地改良区レベルは土地改良事業における土地改良区の役割から重要だと考えられる。本発表では、土地改良区レベルにおける有用なインフラ会計の構築に寄与する知見を獲得することを目的として行った、①土地改良区会計の実態と課題に関しての現況調査および、②インフラ会計のモデル作成の結果について報告する。

2. 研究対象と手法

現況調査では、大規模かつ会計面で一般的（単式を採用）な改良区の例として S 土地改良区（東北所在。以下、S 改良区）を、大規模かつ会計面で先駆的（複式を採用）な改良区の例として O 土地改良区（中部所在。以下、O 改良区）を調査対象とした。また、農業水利施設の資産情報把握の代行主体の一つとして、N 土地改良調査管理事務所（以下、N 事務所）も調査対象とした。研究手法は、現況調査ではヒアリングおよび資料調査を行った。ヒアリング調査は、2011 年 8 月～12 月にかけて対象組織の職員などに対して行った。また、モデル作成の適用事例は、O 改良区の平成 21 年度決算情報を元に作成した。

3. 結果と考察 1 現況調査

先駆的に複式簿記を導入している O 改良区において、資産計上の対象となっている水利施設は改良区が財産権を有する県営・団体営造成施設である。2 本立ての収支決算および損益計算書に表れる毎期のフロー情報の累積として、コストに基づく水利資産の金銭的価値に関する情報が貸借対照表の「構築物」に集約される。また、施設種ごとの資産価値の推移に関する情報が固定資産内訳書にて示されている。

各調査対象における改良区会計への複式簿記導入に対する意向を整理すると、S 改良区では、施設を資産計上する必要を認識している一方、複式簿記の全面的な導入に対しては難色が示された。N 事務所では、補修や事前積立の重要性への理解促進の観点から、管内の改良区に対して土地連を通じて複式簿記導入への働きかけを行っているものの、中々進まない現状とその理由（コストに対して分かりやすいベネフィットがない）が聞かれた。O 改良区においては、複式簿記の全ての要素が実務上必要とは感じられないことや、部分

*東京農工大学大学院農学府農業環境工学専攻 Graduate School of Agriculture, Tokyo Univ. of A & T

**東京農工大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Tokyo Univ. of A & T

キーワード：農業水利施設、ストックマネジメント、会計

的導入（水利施設も記載した貸借対照表を中心に整備）も資産管理の観点で有効である、複式簿記の導入から個々の改良区に合った方式の確立までは数年が必要、“ベース”（新基準準拠でなくとも複式導入の試み）がある方が新基準方式への移行も容易などの見解が聞かれた。以上から、現場レベルのニーズとして、全面的な複式簿記導入が必ずしも適さない中、水利施設の資産情報の把握・表示に関する部分に関してのみでも先行的に取り入れる形としてのインフラ会計、という形になると考えられた。

4. 結果と考察 2 インフラ会計モデル作成

ハード的対策をソフト的対策で代替できる²⁾などをはじめとする農業水利施設の特性から、土地改良区レベルのインフラ会計では、事前積立等に関して土地改良区（事務局）と組合員との合意形成に資する役割が重要になると考えられる。

組合員に分かりやすく資産形成状況の報告を行う観点では、公会計の分野で提唱された納税者貸借対照表³⁾が参考になると思われる。これは、国や自治体の貸借対照表を、記載される財の性質から、政府（首長）の貸借対照表と、納税者の貸借対照表に分けることで、資産の稼働により納税者に提供される行政サービスと将来に先送りされている負担とを明示するものである。これを土地改良区の貸借対照表に援用すると、組合員の貸借対照表に組合員の受益と負担とが明示される「組合員貸借対照表」を作成できる（図1）。これに実際の会計数値を適用すると表1のようになる。

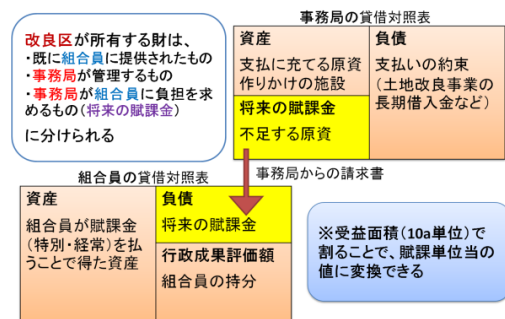


図1 組合員貸借対照表の概念図

Fig.1 The concept of the balance sheet for member farmers

表1 組合員貸借対照表のO改良区への適用事例

Table.1 The application of the balance sheet to the financial statements of O. Land Improvement District in 2009

O改良区(組合員)の貸借対照表 平成21年3月31日現在		10a当	平成21年度未受益面積(10a): 29362.045
科目		金額(単位:円)	
I 資産の部			
1	固定資産		
	(1)有形固定資産		
	構築物(=水利施設)		10977.2
	その他の有形固定資産		6532.6
	組合員に既に提供されている資産 計		17509.8
II 負債の部			
	将来の賦課金		6565
III 持分の部			
	土地改良区運営成果評価額		10944.8

5. おわりに

土地改良区において複式簿記の全面導入でなくとも、開始時貸借対照表および供用中の施設への処理に関するルールなどを暫定的に決定し、資産価値の推移に関する情報も含む施設台帳を整備していくとともに、組合員貸借対照表のような形で表示することで、水利施設の資産としての地位の確立とそのマネジメントへの一助になるものと思われる。

引用・参考文献

- 1) 北村浩二・本間新哉・加藤敬：農業水利施設へのインフラ会計導入の必要性と諸課題（2008）、農工研技報 207、pp.13-23
- 2) 圓山満久：農業水利施設の機能保全(ストックマネジメント)に向けた国の取組(2011)、農村計画 第40巻1号、pp.3-58
- 3) 吉田寛：公会計の理論（2003）、東洋経済新報社